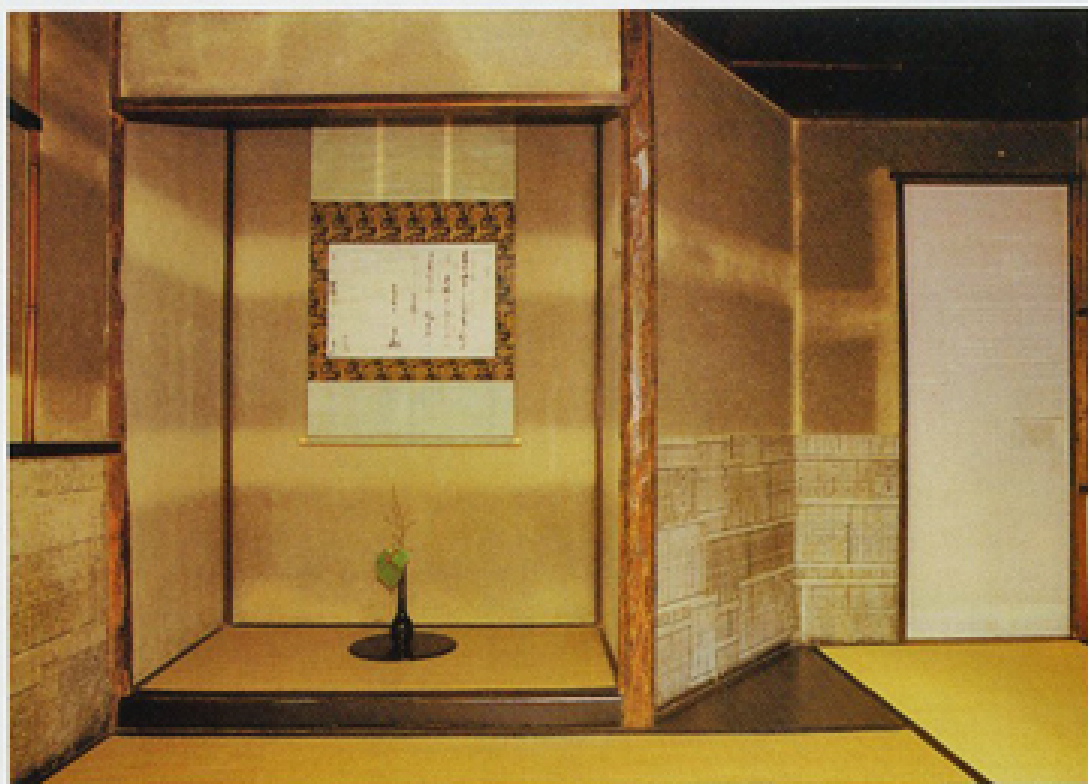


# 如庵の茶の湯空間

茶道資料館研究員

飯島照仁



国宝の如庵は京都建仁寺の塔頭正伝院に設けられた織田有楽（一五四七―一六二二）の茶室である。織田有楽は織田信長の実弟であり大坂冬の陣に豊臣方にくみしたが、のちに堺・京都などに隠棲し、茶人として知られている。如庵は明治四十一年に東京の三井家本邸へ移築され、昭和十三年（一九三八）大磯の別邸へ移され、さらに同四十七年に愛知県犬山市名鉄犬山ホテル敷地内の有楽苑に移築されている。

如庵の露地は「都林泉名勝図絵」より景色を再現したもので、蹲踞の手水鉢は加藤清正が文禄の役（一五九二―九三）の折、釜山沖から持ち帰り「釜山海」の銘が付けられている。一般的な手水鉢は丸味のある川石か石肌の特徴がある山石（鞍馬石など）を使用することが多い。しかし「釜山海」は海石を使ったとても珍しい手水鉢で、海水に浸かり波に洗われて自然にできた水穴が特徴的な手水鉢である。また手水鉢の前に位置する大きな前石には、天正七年の刻銘が記されている。更に

露地の奥には有楽好みの石の井筒があり、「元和元年九月二日有楽」の銘が刻まれているが、この井筒は珠光・紹鷗も愛用した京都醒ヶ井六条の名水、「佐女牛井（醒ヶ井）」と同形の井筒である。有楽は、佐女牛井の井筒を歴史の遺構として元和二年に再興している。

外観は柿葺きで入母屋風の屋根になっており、大梅筆の「如庵」の扁額が掛けられている。正面左端には袖壁が設けられ、大きな丸い下地窓が開けられており、土間庇を構成している。

この丸い下地窓に相對して開口が設けられ、茶室正面からは開口が見えない位置関係となっている。正面からは二枚の腰障子が見えているが、ここは手荷物を置ける場所であり、刀置きなども設えられる空間として様々な用途に利用できる小室となっている。

開口を潜ると、茶室内部は二畳半台目の向切の空間となっている。如庵の内部構成は床周辺・仕切り壁・窓・腰

張り・天井など多くの特徴を指摘できる。また点前座側に座った茶室内部の見え方と客座側に座った茶室内部の見え方にも大きな違いが窺える。

まずは客座側に座って茶室内部を見渡すと、床の間口が台目幅であるにもかかわらず、広く感じられる。これは「筋違いの囲い」といわれているように、床脇に鱗板という三角形の板が仕込まれており、その三角形の板の一边に添って壁が立ち上が



り、床の間の下座側が斜めの壁となっており、これがデザイン的に二畳半台目の空間であるにもかかわらず、茶室内部をゆったりと感じさせる一因となっている。亭主方は茶道口から客座への給仕がしやすいという、デザインと使い勝手の両面からの意匠が凝らされている。

また点前座側には仕切り壁がある。炉の先に中柱を立て、板壁に火燈形の割り貫きがされ、開放的に光を点前座に採り入れている。一般的な仕切り壁は道安間や宗貞間に見られるように客座と点前座を二分するように設けられており、建具が備えられている。如庵の点前座先の仕切り壁は、他に類例がない。この仕切り壁の構成が茶室内部に変化を与えている。更に点前座側の二つの窓は、外側から竹が詰め打ちされており、有楽の好みとして有名な「有楽窓」と呼ばれている。野趣に富んだ意匠と大きな窓でありながら採光を散えて抑えた形式が、点前座に目を

向けたときに飽きない構成となっており、とても楽しい。

一方点前座側から客座に目を向けると、窓が大きく多いことが分かる。そして窓の中敷居いっぱいまで腰張りが貼られている「惣張り」が茶室に緊張感を与えている。如庵の腰張りは古曆を使っており「曆張りの席」とも呼ばれるゆえである。

天井は平天井と掛込天井の二つから構成されている。床前の天井と点前座上の天井が同一の平天井であり、相伴客の上の天井は掛込天井となっている。床前の正客の上の天井と点前座の亭主の上の天井が同一であることは、主客平等のもとでの茶の湯を意識したであろう有楽の姿勢が窺える。

如庵は有楽の独創的な工夫から構成されており、デザインと使い勝手の両面を意識して斬新にまとめられている。建築的な知識だけでなく茶の湯を熟知した有楽の茶趣が細やかに表現された茶の湯空間である。この空間でゆったりとした時間とともに一碗を味わいたいものである。

#### 友の会入会案内

茶道資料館友の会では茶道を愛好される方であればどんな様でも入会していただくことができます。

入会申込書がご入用の方は、茶道資料館友の会係までご連絡ください。

#### お知らせ

友の会では会員の皆様からの原稿を募集しております。ご参加いただきました友の会行事の感想がございましたらお寄せください。

また、今後ご希望の行事がございましたらお聞かせください。皆様のご意見をお聞きし、より充実した会にしていきたいと存じます。

#### 平成二十三年度 友の会行事予定

##### ○特別講座

七月開催予定

##### ○第十二回友の会茶会

十月十五日(土)・十六日(日)  
席主 湯木美術館

平成二十三年四月発行

編集・発行 茶道資料館

〒六〇二-八六八八

京都市上京区堀川通寺之内上る

裏千家センター内

電話 〇七五-四三二-一六四七四

FAX 〇七五-四三二-三〇六〇

印刷 和光印刷株式会社